

## 第2章 イスラームにおける女性の地位とイスラーム運動

宗教の面で見るとエジプトは、人口の約90%を占めるイスラーム教徒と、10%程度のキリスト教徒（ほとんどがローマ支配時代に興ったキリスト教の一派であるコプト教徒）で構成されている。現行憲法によって信仰の自由と諸宗教の典礼の執行を保障されているが、イスラームが国教であり、シャリーア（宗教的規範、イスラーム法）は立法の主源泉であることも明文化されている。したがって、イスラームがエジプトの国民的信仰として政治的、社会的に多大な影響を及ぼしているのは確かである。特に、エジプトにおける支配的なジェンダー概念や女性に強いる道徳観は、イスラームの本質にかかわらず、その解釈に強く依存していることが多い。

エジプトなどのムスリム世界においてイスラームにおける女性の地位は、主として宗教学者か男性によってのみ論じられる傾向にあったが、近年になってエジプトや欧米の女性社会学者、あるいは法学者が活発に論じるような動きがある。特に、欧米人あるいは欧米で教育を受けたエジプト人の研究者は、1970年代以降に顕著になったイスラーム運動や女性のベール化現象に注目し、女性にとってのイスラーム的アイデンティティーを考察し始めている。

本章では、イスラームの解釈における女性の地位と役割について、そして現代のイスラーム運動と女性の関係などを扱った文献を紹介する。

### I. イスラームにおける女性の地位と役割

イスラームの啓典であるコーランや預言者ムハンマドの言行から成るスンナ（慣行）、預言者の教えを記したハディースには女性の人権につ

いて説明した部分が含まれている。コーランのなかで『1. 雌牛章（バクアアラ）』の他に、特に女性について記述している章は以下のとおりである。

- 『4. 婦人章（アル・ニサーア）』寡婦の結婚、離婚、遺産の相続など。
- 『24. 御光章（アル・ヌール）』姦通罪、他教徒との結婚の禁止、近親者以外との接触、売春の強要の禁止など。
- 『33. 部族連合章（アル・アフザーブ）』預言者の妻たち、および一般ムスリム女性の地位と尊厳など。
- 『65. 離婚章（アル・タラーク）』離婚、イッダ期間、子供の保護など。

また、実際にコーランには女性の相続権は男性の半分であり（『4. 婦人章』）、裁判における証人は男性1人に対し、女性は2人と定める（『2. 雌牛章』）など、当時の男女間の役割を反映したものとされながらも、男女の格差が存在する。現在でもエジプトなどイスラーム世界においてこのシャリーアが適用されているのは事実である。

ナーシル(J. J. Nasir)の『私的地位のイスラーム法』(E117)および『イスラーム法と近代イスラーム立法の下における女性の地位』(E118)は、イスラーム法学や各派の論争、現代の身分法などを論じており、入門的な資料を提供するものである。

イスラームにおける女性の地位と役割に関する解釈は、スンナ派の4法学派やシーア派によってかなりの相違がある。たとえば、イスラームのなかでも最も厳格なワッハーブ派には、女性は家庭以外における役割を持たず、感性と知

性において男性より劣るなどとする解釈もみられる。『コーランとスンナにおけるヒジャーブ(ベール)とスフル(ベールをしない服装)』(A101)は、このワッハーブ派の代表的な指導者のひとりであるサウジ・アラビアのビン・バーズ('A. A. Bin Bāz)の著作である。このなかで彼は、『男性の職域における男性に対する女性参加の危険性』、『女性の服装と社会におけるその影響』と題して、女性がいかに性的に危険な存在であるか、男性がいかに女性に誘惑されやすいものであるかを論じている。つまり男性が「女性の性」の被害者であるという視点であり、そのためのいわば予防的措置として女性の道徳やベールを説くものである。

さて、アブデル・カーデルは、序章で取りあげた文献(E1)において女性の地位に関するイスラームの影響を論じる姿勢について、イスラームを擁護する姿勢と批判する姿勢の2種類に分けている。まず、擁護する側の観点は、主に次の2点である。

- (1) イスラームは、イスラーム発生以前(ジャーヒリーヤ時代)における女性の低い地位を改善した。
- (2) 現代のイスラーム女性の「低い地位」は、コーランやハディースの精神を反映したものではなく、「イスラーム以外の諸条件」や誤った法解釈によるところが大きい。

第1点では、ジャーヒリーヤ時代は、無秩序な状態にあり、一夫多妻や女兒の間引き、女奴隷、売春などのような女性の虐待や抑圧が存在したことを説明し、この時代の誤りを修正し、女性を解放したのがイスラームだとする。当時のイスラームが女性に対して公平で進歩的であったことを強調するもので、このような観点にたった文献は非常に多い。たとえば、アル・アフガーニー(S. al-Afghānī)の『イスラームと女性』(A95)やハイラト(A. Khayrat)の『イスラーム

における女性の位置』(A132)、アルファ(M. S. 'Arfa)の『イスラームにおける女性の権利』(A165)、サーレフ(S. Sāleh)の『イスラームにおける女性』(E121)などがそれである。

また、上記を含むほとんどの文献は、ムスリムの理想的な女性像とされるイスラーム創世期の「イスラームのユートピア時代」における預言者の妻たちや娘たちの生活環境や習慣、役割、地位などをもとにして女性の地位を説明することが多い。このような女性たちや彼女らの生活を描いた文献には、アボット(N. Abott)の『アーイシャ、ムハンマドの最愛の女』(E88)、またアブドゥル・ラフマーン('A. 'Abd al-Rahmān)の『ニサー・アル・ナビー：預言者の妻たち』(A158)『バナート・ナビー：預言者の娘たち』(A155)および『預言者の母』(A154)の3部作などがある。特にアブドゥル・ラフマーンは、ピント・シャアティーのペンネームで有名で、コーランのタフシール(tafsīr-コーランの解釈・注釈)を著すなど、女性のコーラン学者として特異な存在である。

また第2点は、イスラーム改革主義者とイスラーム原理主義者の両者に、あるいは多くの女性研究者の間に同様にみられる。たとえば、イスラーム改革主義の文献のなかでは、アズハルの宗教学者のひとりであるハルブ(G. Harb)の『イスラームにおける女性の自立』(A117)がある。彼は、コーランと正統ハディースを引用してイスラーム初期における女性の活躍や結婚拒否の自由、また、政治参加を意味するパイアへの女性の参加などにおける当時の女性の地位を詳細に説明する。そして、このようなイスラーム初期における女性の自立した地位が徐々に侵害されていったのは、原理イスラームとは異なる、誤った説話に基づいたものが外から侵入したためであるとする。その要因として(1)ユダヤ文献、(2)伝統に由来したものや独裁、抑

庄または国家が弱体化した時代における反動的な概念、(3)現代のアッパース・マフムード・アル・アッカード (A.M. al-'Aqād) の『コーランにおける女性』(A167)のようなコーランの名においてなされる女性についての説話、(4)精神的に女性を抑圧するような説話、(5)女性ひとりの旅行の禁止や、フィットナ (fitna-女性の魅力) とベール、女性に対する文化と学問の禁止、女性の政治的権利の禁止のような反動的なファトワー (fatwā-イスラーム法の解釈・適用に関する法学の権威者の意見書) の5項目について事例をあげて論じている。さらに、身分法 (Qanūn al-aḥwāl al-shakhsīya) の法的起源は、原理イスラームにはなく聖書から由来したものであり、現在の身分法の基本部分は、副王イスマーイール時代(1863~1882年)にフランス法や、古来の伝承、慣習あるいは何人かの宗教家のタフシールを参考にして制定されたと説明する。

一方、イスラーム原理主義的な立場からアブー・アル・マジュド (A. K. Abū al-Majd) は、『女性問題に対するイスラームの概念』(A94)を著し、コーランとスンナをもとに以下のように述べている。「人間創造以来、男女は人間としての平等を与えられ、イスラーム初期には男女は共に戦争に参加し、それぞれの役割を担った。女性は家庭のなかになにのみ居よという思想は、イスラームによるのではなく、アラブの伝統が影響したもので、イスラームは、女性を家に拘束していないし、家の外で働くことを禁じていない。たとえば、第1回のバイア (カリフの承認選挙) には女性が参加したという事例がある。」すなわち彼は、現代アラブ・イスラーム思想における女性に対して流布している通念の誤りを指摘する。特に社会的環境が女性の状況に重要な影響を及ぼしたことを強調して、イスラームを弁護する。しかし、彼自身は女性の社会性と

社会的現実からみて、女性がイスラーム国家の長となることには反対であると述べるなど、この点ではイスラームの通説に従うものである。

このように現代では、ムスリム同胞団などのイスラーム原理主義グループは、女性の家庭における役割や義務を強調する傾向にあるが、女性の教育や社会参加を否定していない。この他に、ムスリム女性同胞団の女性問題に対する見解を示したアル・ジューハリ (M. M. al-Jūharī) の『ムスリム姉妹たちとコーランに則った家庭形成』(A113)があり、ムスリム家庭、ムスリム女性の位置と役割などについて解説する。なお、ムスリム女性同胞団の指導者であるザイナブ・アル・ガザーリー (Z. al-Ghazālī) は、女性問題について『雌牛章 (バクアラー) における観点』(A173)および『新たな復興に向けて』(A172)を、同様にシドキー (N. al-Ṣidqī) は『タバッルジュ (女性の美しさを見せること)』(A150)をそれぞれ著している。

また、モロッコの著名な社会学者で、欧米でも評価が高いメルニッシー (F. Mernissi) は、後述するようにイスラームを批判する姿勢を表しているが、その彼女ですら『ベールと男性エリート』(E115)では、第2の点でイスラームを擁護している。この文献は、「女性はムスリムたちの指導者になり得ない」という通説に対する疑問を出発点にして、各種のハディースを比較しながらイスラームにおける女性の権利について考察するものである。メルニッシーは、奴隷または性差別のない人類平等主義的な社会建設を意図したムハンマドが、女性を仲間として扱うべきだと教えていたと結論づける。そして、いかに一部の特権をもった宗教家によって、イスラーム社会における女性の参加を拒絶するような誤ったハディースが作られ、継承されたかを強調している。

これに対してイスラームを批判する姿勢は、

イスラームの教義よりもむしろワッハーブ派にみられるような解釈における女性観を問題にして、それによって影響されたイスラーム社会の伝統的イスラーム観を批判する立場をとる。したがって、教義そのものを直接的に批判した文献は少ないようである。たとえば、前述したメルニッシーの『ベールの向こうに』(E114)は、イスラーム社会に存在するジェンダー観を論じたもので、西欧において高く評価されている。同書は、女性の性的本能を能動的だとするイスラーム法学者の見方を批判するものである。そして彼女は、この男性本位のジェンダー観の展開を「女性のベールと隔離」に関連づけている。

また同様の立場から、イスラームの名を利用して女性観を論じた文献が批判の対象になることが多い。たとえば、しばしば矢面に立たされるのが著名なアラブ現代作家であったアッバース・マフムード・アル・アッカードやイスラーム史上偉大な思想家とされるイマーム・ガザリー(Imām Ghazālī: 1050-1111)である。たとえば、アル・アッカードは『コーランにおける女性』(A167)や多くの文学作品において、女性を受動的な性格で精神未熟者、あるいは偽善者として描く傾向が強く、男女の性格は根本的に相違するという思想で貫かれているという。そのため彼は、メルニッシーやサアダーウィーなど多くのフェミニストから「女性の第1の敵」と酷評されている。

イスラームの誤った解釈と現代の女性問題を関連させて扱った文献は、比較的多い。まず、アル・ブルカーディー(H. al-Būrqādī)の『イスラーム的観点における社会的・経済的権利』(A104)は、誤ったイスラーム法の適用によって女性参加がないままに進められ、多くの障害を生み出した社会経済開発を批判するものである。

女性の労働権に関してイスラームの本質的な認識を見いだそうとするものにアル・バース(S.

al-Bāz)の『イスラーム法における女性と労働の権利』(A97)がある。著者は、コーランには女性の労働的権利の禁止あるいは許可について記述した箇所はなく、男女間の共生(Ikhtilāf)やベールに関する記述は、預言者の妻たちのみを対象としたとし、イスラームが女性の労働権を制約しないことを主張する。

ところで、エジプトの高出生率は、イスラームによる多産の奨励が原因のひとつだと考える傾向がみられ、これと関連してイスラームと家族計画との関係を扱った文献もいくつかみられる。

アル・カラマーニー(Y. I. el-Karamani)の『イスラームと家族計画』(E109)は、1969年にワクフ省において公認された研究文献を英文に要約したもので、エジプトの人口問題との関連でイスラームと家族計画を扱う。著者は、コーラン、スンナ、イマーム(宗教最高指導者)の见解を例にとって比較的柔軟な解釈を行い、不妊に対する誤った解釈を正し、次の2点から家族計画の実施を肯定する。

(1)「多産で献身的な女性」との結婚に関する伝統的な言及は命令ではなく、ただ単に、「多産で献身的な女性」との結婚を許可しているだけである。

(2) 家族計画と産児制限は、最近の社会経済状態に起因するもので、個人と社会の双方に関係する。イスラームが付与した個人の選択の自由に基づいた決定であり、子供を持つことへの自然な要求を邪魔するものではない。

また、オムラン(A. Omran)の『イスラームと産児制限』(E119)も、アル・カラマーニーと同様にイスラームが多産に影響を及ぼすメカニズムとイスラームを多産奨励主義であるとする誤った認識、また、家族計画を理論的に支援しようとするイスラームの教義などを説明している。

なお、ユダヤ教やキリスト教など他の宗教との比較において、イスラームにおける女性の地位や権利について論じたものには、イブラーヒーム(A. M. Ibrāhīm)らの『女性の権利：イスラームと他の諸宗教』(A92)やアブドゥル・ワッハーブ(A. 'Abd al-Wahhāb)の『預言者の妻たちと女性の地位：ユダヤ教、キリスト教、イスラームにおいて』(A161)、アブドゥル・マクスード(M. 'Abd al-Maqṣūd)の『全宗教と現代における女性』(A160)がある。

## II. 現代のイスラーム運動と女性

1970年代半ば以降のイスラーム原理主義の台頭とともに、女性に関係したイスラーム関係の書籍は、急激に出版量を増やしている。特に、この時期の西欧的な文化の流入によって生じた道徳的な退廃を嘆いて、女性に対してイスラーム的な道徳観を説くものが非常に多い。たとえば、エジプトの高位の宗教指導者で、国民に平易な言い回しでイスラームを説いて高い人気と尊敬を得ているアル・シャラーウィー(M. M. al-Sha'rāwī)の『ムスリム女性とアッラーへの道』(A144)やアル・ジャマル(I. al-Jamal)の『ムスリム女性の法的理解(fiqh)、習慣、相互関係、道徳、教え』(A110)、アル・ディーン('A. al-Dīn)の『女性の行動とそれに関するイスラームの位置づけ』(A133)などである。

このような動きに対して、ルトゥフィー(S. Luṭfi)の『現代イスラーム思想における女性』(A180)は、現代のイスラーム・イデオロギーの危機と関連させてイスラーム思想における女性問題を評論している。彼女は、現代の社会問題や女性問題の解決策をイスラーム・イデオロギーのなかに見いだそうとする動きに対して批判的である。同様の批判は、左派的なエジプト人女性研究者に多くみられる。

また、欧米人あるいは欧米で教育を受けたエ

ジプト人研究者は、主に女子大生などの若い女性たちに拡大したベール化現象に関心を向けている。これらの研究者は、1970年代後半から80年代に顕著になった社会経済的不安やイスラーム原理主義運動、あるいはイスラームにおけるジェンダーの問題と関連させて論じる傾向にある。また彼女らは、左派的なエジプト人研究者のようにこの現象を伝統に逆戻りするための復古的な意図を持ったものとは捉えず、むしろ女性の家庭外へ出るための手段と見なして、好意的に捉える側面が強い。

1970年代から若い女性の間にもハッジババ(ベールをまといイスラーム的服装をした女性)が目立ち始めたが、このような現象について社会犯罪研究センターでは大規模な世論調査を実施し、『女子大生におけるベール化現象の調査』(A184)(A185)にまとめている。この文献は、まず、ベールの歴史的展開について分析し、コーランやスンナによるイスラーム的服装とは、例外なく体を包むことであると説明する。たとえば、イスラームは(1)女性は初潮が来たならば、顔や手のひらを見せること(2)ジャーヒリーヤ時代のように美しく装飾した衣服(3)薄手の衣服(4)体の形を見せる衣服(5)香水をつけたり香を薫くこと(6)男性のような服装(7)不信心者と同じような衣服(8)卑しい服、などを禁じているという。しかし、これに反してマムルークおよびオスマントルコ時代には上層女性の富の象徴として宝飾品的なベールが流行したため、イスラーム的な意味を失った。したがって、20世紀初めに実現したベールからの解放は、オスマントルコ支配の終焉を意味したと位置づけるものである。

これに対して1967年戦争の敗戦後に発生した新しいベール化現象は、継続的な社会的動揺と西欧文化の存在に対する危機感を乗り越える試みとして生まれたと説明する。また著者は、1920

年代にいち早く、スフル（ベールをつけない人）になった社会的階層である文化人やインテリ層に現在、このベール化現象が広まっている点を指摘するもので興味深い。そして第2部の実態調査では、ムハッジャバ201人とスフル187人の家庭環境や思想、嗜好など87項目の質問を行っている。これによると、ムハッジャバの家庭は、スフルの家庭と比較して両親の教育程度や家庭収入は低く、家族数が多いという。また、ムハッジャバの主要な関心事は宗教であり、宗教関係の読書や新聞、テレビ番組を好み、悩み事の相談においても宗教家や宗教書を頼みとし、ベールを着けることによって精神的な安定を感じると答えている。イスラーム的服装に対する家族の反応は、71.7%が賛成で、15.5%が反対であるという。言い換えれば、娘のベールに反対する家庭は、服装や生活様式の点において西欧的であるといえるかもしれない。生活様式や社会的階層によって居住区がある程度分かれているカイロでは、若い女性がそれに反した西欧的な服装をすることは、かなり勇気が必要であり、また、逆に家族の反対を押し切ってムハッジャバになることは、思想的な背景があるとみることができる。教育の必要性に関しては、ムハッジャバの76.5%、スフルの54.5%が良き妻になるためであり、自分自身のためと回答している者はムハッジャバの21.3%、スフルの40.3%である。女性の労働に関しては、ムハッジャバの66.9%、スフルの31.4%が消極的で、その理由として両者とも、ほとんどが家族の世話が優先することをあげている。結果としてムハッジャバは、一般に保守的で、宗教を尊敬するイスラーム道徳の模範を示すような回答になっている。

このようなベール化現象を考察した文献には、まず、ウイリアムズ(J. A. Williams)の『エジプトにおける政治的・社会的現象としてのペー

ル化』(E133)がある。彼は、ベール化現象を女性の隔離ではなく、女性の都市生活への参加の手段として捉えている。すなわち、女性のベールは、人口増加に伴った交通渋滞や住宅不足、物価上昇、さらには結婚の遅れ、道徳的な退廃などのような社会的、経済的困難に起因する社会不安から逃れ、精神的平安を得る手段だとする。さらに彼は、ムスリム女性としてのアイデンティティーを得るためにズィー・アル・イスラーム(ziyy al-islām または ziyy sharī-イスラーム法に則った服装)を選択したとし、現代のベール化をイスラーム原理主義や反近代主義的な側面としてのみ扱うことには批判的である。

これに対して、アル・ギンディー(F. el-Guindi)の『ベールを被った行動主義』(E100)と『ムスリム倫理とベールを着けたインフィターフ：エジプトの現代イスラーム運動』(E101)は、エジプト女性のイスラーム的服装とイスラーム運動への女性の積極的な参加を論じたものである。アル・ギンディーは、現代のイスラーム復古主義に伴うイスラーム的服装は、世俗主義的なりベラリストが言うような、「ベール＝隔離＝回帰現象」の意味ではなく、むしろイスラームという名、あるいは人類平等主義の価値観に基づいたものだとする。すなわち、彼女たちがベールを装うのは「社会に参加する」時であり、このような女性たちにとってベールは、むしろ女性の解放を促すものであると述べる。また、イスラーム的服装は、女性に威厳を与えるが、これに対して西欧的な魅惑的服装は、女性を性的対象と見なすような見知らぬ男性の渴望の前に体を露出することだとするものである。したがって、1920年代のフェミニストによるベールの廃絶が、隔離あるいは除外からの女性の解放を象徴するものであったのに対して、現代のイスラーム的服装は、不道徳と露出から女性を解放す

る象徴であると見なしている。特にアル・ギンディーは、ベール化現象を女子の大学進学増加との関係から分析しており興味深い(本書第5章参照)。

ホフマン・ラッド(V. J. Hoffman-Ladd)の『現代エジプトにおける女性の慎みと隔離についての弁証法』(E107)は、現代のエジプト女性における「ニューヒジャーブ」(新しいベール)の意味やイスラームにおける女性の慎みと隔離について考察したものである。特にカーシム・アミーンの思想やムスリム同胞団のパンフレット、最近の文献やメディアにみられる思想をもとに、ジェンダーをめぐる概念と論争について述べ、上記のアル・ギンディーの研究を掘り下げている。まず、イスラーム的立場をとるグループは、イスラーム的イデオロギーにおける女性の慎みの概念をアウラ('awra-弱いまたは攻撃されやすい場所)、フィットナ(fitna-誘惑、混乱、魅力)、ズィーナ(zīna-装飾、装身具、または美)、すなわち、女性の魅力とされる特徴のなかに見いだすという。この慎みの概念には2つの思考がみられる。すなわち一方は、女性の体全体(顔と手を除いて)は攻撃されやすい弱点部分であり、困惑と恥辱を回避するために覆われる必要があるとする思考である。これに対して他方は、女性の性的魅力は、破壊的な要素であり、男性を保護するために女性を隠す必要があるとする、つまり女性が攻撃者で男性が被害者であるという思考である。著者は、前者の代表としてカーシム・アミーンを、後者の代表としてムスリム同胞団をあげている。アミーンが根絶しようとしたものは、女性の顔にベールを着けたり、女性を家庭に縛り、男性から隔離する「習慣」であり、むしろ彼は、イスラーム法に則った服装(al-hijāb al-sharī')への回帰を熱望したと、著者は解釈している。結果としてこの対立する両者とも、女性の体は隠されるべきだとい

う慎みの概念を見いだしているという。したがって、この思想を支持する女性たちは、「伝統的でないイスラーム的服装」をすることによって街頭や大学、職場に現れ、女性たちは、公的領域に入る権利を獲得しようとしているとみる。また、セクシャルハラスメントから彼女らを守るためにイスラーム的服装によって不可侵な私的領域を創ろうとしていると、著者は見なす。さらにまた同文献は、イスラーム的だとする男女の伝統的な役割を支持する人々が存在することに言及している。彼らは、伝統的価値観として男女の基本的な相違をフィトラ(fitrah-天性)のなかに認めることによって、労働は女性らしさを損なわせると信じているという。これらのイスラーム的陣営と対立するのが、サアダーウィーやアミーナ・サイードのような近代化と開発を不可欠とするグループである。ホフマン・ラッドは、サアダーウィーのような社会主義的なフェミニストでさえも、「イスラームのユートピア時代」の女性の活躍を引用して女性の解放を訴えている点を興味深くみている。

ズフル(S. Zuhur)の『ベールの復活の表すもの』(E135)は、カイロの女性たちの意識調査をもとにベール化現象を論じたもので、基本的に上記のホフマン・ラッドと同様の観点に立つ。まず、導入部分には現代のベール化現象を論じるうえで関連のある用語、たとえばイスラーム主義者(Islamists-イスラーム原理主義グループ [Jama'āt al-islāmīya])に属する人々)や新イスラーム女性(new Islamic women-イスラーム的な装いをした女性)などの説明があり、有益である。同書の中心部分では、ベールに関する意識調査の結果から、年令と社会階層がイスラームの受容において重要な要因である点を説明している。すなわち、若い女性とプチブル、あるいは中間層下層の女性がイスラーム主義者の影響を受け易い点を指摘する。またズフル

は、イスラーム主義者の主張するような宗教的な敬愛からではなく、むしろ彼女たちは、社会経済的あるいは政治的不安からベールを受け入れる点を強調している。

マックロード(A. E. Macleod)の『気軽な抗議：カイロにおける働く女性、ニューベール、変化』(E112)は、カイロの中間層下層の女性を対象に実施したインタビューをもとに分析したものである。特に1970年代後半以降に顕著になった階層間の不平等や男女間の不平等と関連させて考察している。彼女は、この現象は、中間層下層の女性たちが家庭外に出るために選んだ

解決策であるとみている。彼女らは、家計の手助けのために就労する必要がある、階層間や男女間の不平等といった複合的な抑圧のなかで家庭と職場における緊張を取り除くためにイスラーム的服装を選んだとする。服装は、女性たちの間の典型的な会話の媒体であり、中間層下層の文化認識において、イスラームの支配的な価値観を含むという。彼女たちは、社会における権力関係の存在を黙認しながら、あるいはそれと調和しながら自分たちの働く権限を守ろうとする、ささやかな抗議であると述べるものである。



<文献目録—アラビア語>

- (A 91) الابراشى، محمد عطية: مكانة المرأة فى الاسلام. القاهرة، دار الشعب، 1971. ص 126 .
- (A 92) ابراهيم، عبد الحميد محمد ومحمود عبد الحميد محمد: حقوق المرأة بين الاسلام والديانات الاخرى. الكويت، دار النشر الكويتية، 1986. ص 307 .
- (A 93) ابراهيم، محمد زكى: التبصير بمشاهير شهيرات آل البيت. القاهرة، دار العشيرة المحمدية، 1962. ص 231 .
- (A 94) أبو المجد، أحمد كمال: التصور الاسلامى لقضية المرأة. (ندوة الخبراء حول المرأة العربية والتغيرات الاجتماعية والثقافية) بغداد/ القاهرة، UNESCO, UNESCWA, 1988: ص 53-79.
- (A 95) الافغانى، سعيد: الاسلام والمرأة. بيروت، دار الفكر للطباعة والنشر والتوزيع، 1970. ص 130 .
- (A 96) الالبانى، محمد ناصر الدين: حجاب المرأة المسلمة فى الكتاب والسنة. ط 5. القاهرة، دار الانصار، 1978. ص 122 .
- (A 97) الباز، شهيدة: المرأة وحق العمل فى الشريعة الاسلامية. (ندوة المرأة والتنمية القومية) القاهرة، المركز الاقليمى العربى للبحوث والتوثيق فى العلوم الاجتماعية، 1984: ص 65-71.
- (A 98) الباز، محمد على: عمل المرأة فى الميزان. جدة، الدار السعودية للنشر والتوزيع، 1981. ص 226 .
- (A 99) البرشومى، محمود: نساء مع الرسول. القاهرة، مؤسسة روز اليوسف، 1979. ص 91 .
- (A100) بن السنوسى، ابو رضوان زغلول: المرأة بين الحجاب والسفور. بيروت، دار مكتبة الحياة، 1985. ص 75 .

- (A101) بين بان، عبد العزيز بن عبد الله : الحجاب والسفور فى الكتاب والسنة . بيروت، دار ابن زيدون / القاهرة، مكتبة السنة، 1976 . 231 ص .
- (A102) البننا، حسن: المرأة المسلمة - خرج أحاديثه وراجعه محمد ناصرالدين الألبانى، القاهرة، مكتبة السنة، 1988 . 163 ص.
- (A103) بيهم، محمد جميل: المرأة فى الاسلام وفى الحضارة الغربية . بيروت، دار الطليعة للطباعة والنشر، 1980 . 205 ص .
- (A104) البورقادي، حبيبة : حقوق المرأة الاجتماعية والاقتصادية من رؤية اسلامية . (ندوة الخبراء حول المرأة العربية والتغيرات الاجتماعية والثقافية) بغداد/القاهرة، UNESCO, UNESCWA, 1988 : ص 118-142 .
- (A105) جامعة الأزهر، المركز الدولى الاسلامى للدراسات والبحوث السكانية : مكانة المرأة فى الاسرة الاسلامية، سجل الندوة التى أقيمت فى 20 - 22 ديسمبر سنة 1975 . القاهرة، 1977 . 47 ص .
- (A106) الجبالى، أحمد: سلوك المرأة فى مجتمع الانبياء . القاهرة، المركز العربى الحديث، 1986 . 208 ص .
- (A107) الجبرى، عبد المتعال محمد: المرأة فى التصور الاسلامى . القاهرة، مكتبة وهبة، 1975 . 191 ص .
- (A108) الجمالى، محمد فاضل: نحو تربية مؤمنة . ط.3، مزيدة . تونس، شركة التونسية للتوزيع، 1986 . 167 ص .
- (A109) الجمرى، عبد الأمير منصور: المرأة فى ظل الاسلام . بيروت، دار ومكتبة الهلال، 1986 . 224 ص .
- (A110) الجمل، ابراهيم محمد: فقه المرأة المسلمة - عبادات، معاملات . القاهرة، مكتبة القرآن، 1982 . 396 ص .
- (A111) الجميلى، سيد: احكام المرأة فى القرآن . بيروت، دار الكتاب العربى، 1984 . 180 ص .

(A112) الجندى، أنور: المرأة المسلمة فى وجه التحديات. القاهرة، دار  
الاعتصام، 1979. 93 ص .

(A113) الجوهري، محمود محمد: الأخوات المسلمات وبناء الأسر القرآنية .  
المنصورة، دار الوفاء للطباعة والنشر والتوزيع المنصورة،  
1989. 295 ص .

(A114) الحامد، محمد: رحمة الاسلام للنساء وحقوق وواجبات الزوج والزوجة .  
ط 3. القاهرة، دار الانصار، 1978. 91 ص .

(A115) حبشى، محمد مصطفى: جهاد المرأة فى الاسلام. القاهرة، دار الشروق  
العربى، 160 ص .

(A116) الحداد، الطاهر: امرأتنا فى الشريعة والمجتمع. تونس،  
الدار التونسية للنشر، 1985. 220 ص .

(A117) حرب، الغزالى: استقلال المرأة فى الاسلام. القاهرة، دار المستقبل  
العربى، 267 ص .

(A118) حرب، محمد طلعت: تربية المرأة والحجاب. القاهرة، مطبعة  
الترقى، 1899 .

(A119) حسن، عبد الباسط محمد: مكانة المرأة فى التشريع الاسلامى.  
القاهرة، مركز دراسات المرأة والتنمية، جامعة الازهر، 1977.  
55 ص .

(A120) حسن، على ابراهيم: نساء لهن فى التاريخ الاسلامى نصيب.  
القاهرة، مكتبة النهضة المصرية، 1950. 148 ص .

(A121) حسين، أحمد: الاسلام محرر المرأة. القاهرة، المجلس الاعلى للشئون  
الاسلامية، 1968. 123 ص .

(A122) حسين، أحمد عبد العزيز: المرأة ومكانتها فى الاسلام. القاهرة،  
مكتبة ومطبعة الايمان، 1984. 254 ص .

(A123) الحسينى، مبشر الطرازى: المرأة وحقوقها فى الاسلام. القاهرة،  
مطبعة السعادة، 1976. 245 ص .

- (A124) حلمى، منى: موقف المرأة من قضية التراث. (ندوة المرأة والتنمية القومية) القاهرة، المركز الاقليمي للبحوث والتوثيق فى العلوم الاجتماعية، 1984: ص 118-125.
- (A125) حماد، سهيلة زين العابدين: المرأة بين الافراط والتفريط. جدة، الدار السعودية، 1983. ص 79.
- (A126) خرسا، غادة: المرأة والاسلام- أول موسوعة عن المرأة العربية عبر العصور. بيروت، 1980. ص 391.
- (A127) خطاب، عبد المعز: عشرون امرأة فى القرآن الكريم. القاهرة، دار الحمamy للطباعة، 1970. ص 78.
- (A128) خميس، محمد عطية: فقه النساء فى الصلاة. القاهرة، دار الانصار، 1979. ص 125.
- (A129) خميس، محمد عطية: المرأة والحقوق السياسية والاعمال العامة - رأى الهيئات والجمعيات الاسلامية فى مصر. القاهرة، دار الانصار، 1978. ص 140.
- (A130) الخولى، البهى: الاسلام وقضايا المرأة المعاصرة. الكويت، دار القلم، 1983. ص 275.
- (A131) الخولى، البهى: المرأة بين البيت والمجتمع. القاهرة، 1953. ص 148. (من رسائل الأخوان المسلمين)
- (A132) خيرت، أحمد: مركز المرأة فى الاسلام. القاهرة، دار المعارف، 1975. ص 128.
- (A133) الدين، عبد الرب نواب: عمل المرأة وموقف الاسلام منه. المنصورة، دار الوفاء، 1986. ص 200.
- (A134) الراجحى، عبد الغنى عوض: الاسلام انصف المرأة (أباطيل تدفعها حقائق) القاهرة، المجلس الاعلى للشئون الاسلامية، 1978. ص 110.
- (A135) رضا، محمد رشيد: حقوق النساء فى الاسلام وحظهن من الاصلاح المحمدى العام. بيروت/دمشق، المكتب الاسلامى، 1984. ص 205.

- (A136) رضوان، زينب: مكانة المرأة في التشريع الاسلامي. المجلة الاجتماعية القومية (1/3) 14، 1977: ص 267-281.
- (A137) رضوان، عبد الباقي: خطر التبرج والاختلاط. بيروت، مؤسسة الرسالة، 1974. ص 264.
- (A138) الزميلى، مهديّة شحاده: لباس المرأة وزينتها في الفقه الاسلامي. عمان، دار الفرقان للنشر والتوزيع، 1982. ص 195.
- (A139) الساعاتى، محمد ناصر الدين الاليانى: حجاب المرأة المسلمة في الكتاب والسنة. القاهرة، دار مرجان لطباعة، 1978. ص 112.
- (A140) سرور، عبد الباقي: خديجة زوجة الرسول. القاهرة، دار الشرق، 1957. ص 128.
- (A141) شحاته، عبد الله: المرأة في الاسلام بين الماضى والحاضر. القاهرة، الهيئة المصرية العامة للكتاب، 1984. ص 263.
- (A142) الشرباصى، أحمد: حفيذة الرسول - نفحات من سيرة السيدة زينب. القاهرة، الدار القومية للطباعة والنشر، 1963. ص 89.
- (A143) الشعراوى، محمد متولى: القضاء والقدرة - معجزات الرسول، اعجاز القرآن، مكانة المرأة في الاسلام. القاهرة، دار الشروق، 1975. ص 191.
- (A144) الشعراوى، محمد متولى: المرأة المسلمة والطريق الى الله. مكتبة القرآن، 1979. ص 96.
- (A145) شلبى، رؤوف: استوصو بالنساء خير، نظرية الاسلام في شئون المرأة. القاهرة، مطبعة عيسى البايى الحلبى، 1975. ص 171.
- (A146) شلبى، على أحمد: أبناء الزهراء بطلة الفراء زينب رضى الله عنها. ط 2. القاهرة، لجنة التعريف بالاسلام، المجلس الاعلى للشئون الاسلامية، 1977. ص 293.
- (A147) شلتوت، محمود: القرآن والمرأة. القاهرة، المركز الدولى الاسلامى للدراسات والبحوث السكانية، جامعة الازهر، 1975. ص 86.

- (A148) الشواربي، عبد الحميد: الحقوق السياسية للمرأة في الإسلام. الاسكندرية، المعارف بالاسكندرية، 1987. ص 278.
- (A149) شيدرضا، السيد محمد: حقوق النساء في الإسلام. (نداء للجنس اللطيف) القاهرة، مكتبة التراث الاسلامي، 1984. ص 152.
- (A150) الصدقي، نعمت: التبرج. القاهرة، 1975.
- (A151) الصواف، محمد محمود: زوجات النبي الطاهرات وحكمة تعددهن. ط 3. القاهرة، دار الانصار، 1979. ص 95.
- (A152) العاصي، ليلى هاشم على: ظاهرة تحجب المرأة في المجتمع المصري أثرها ودوافعها: دراسة ميدانية لخصائص واتجاهات طالبات وموظفات جامعة عين شمس وربات بيوت في حي حلمية الزيتون. القاهرة. ص 369.
- (A153) عبد الباقي، زيدان: المرأة بين الدين والمجتمع. القاهرة، مكتبة النهضة المصرية، 1977. ص 352.
- (A154) عبد الرحمن، عائشة: أم النبي عليه الصلاة والسلام. القاهرة، دار الهلال، 1972. ص 1960.
- (A155) عبد الرحمن، عائشة: بنات النبي عليه الصلاة والسلام. القاهرة، دار الهلال، 1956. ص 225.
- (A156) عبد الرحمن، عائشة: الخنساء. ط 3. القاهرة، دار المعارف، 1971. ص 126.
- (A157) عبد الرحمن، عائشة: سكينه بنت الحسين. القاهرة، دار الهلال، 1970. ص 1988.
- (A158) عبد الرحمن، عائشة: نساء النبي عليه الصلاة والسلام. القاهرة، دار المعارف، 1973.
- (A159) عبد القادر، زينب: فدوات نسائية. القاهرة، المجلس الاعلى للشئون الاسلامية، 1978. ص 66.

- (A160) عبد المقصود، محمد: المرأة فى جميع الاديان والعصور. القاهرة، مكتبة مديولى، 1983. 187 ص .
- (A161) عبد الوهاب، أحمد: تعدد نساء الأنبياء ومكانة المرأة فى اليهودية والمسيحية والاسلام. القاهرة، مكتبة وهبة، 1989. 545 ص .
- (A162) عبده، محمد: الاسلام والمرأة - تحقيق ودراسة محمد عمارة. القاهرة، الثقافة العربية، 1970. 143 ص .
- (A163) عبيد، منصور رفاعى: المرأة ودورها فى الهجرة. القاهرة، المجلس الاعلى للشئون الاسلامية، 1976. 120 ص .
- (A164) العربى، شهرزاد: البعد السياسى للحجاب. القاهرة، الزهراء للاعلام العربى، 1989. 139 ص .
- (A165) عرفه، محمد بن عبد الله: حقوق المرأة فى الاسلام. القاهرة، مطبعة المدنى، 1978. 276 ص .
- (A166) العقاد، عباس محمود: الصديقة بنت الصديق. القاهرة، مكتبة النجاح، 1973. 110 ص .
- (A167) العقاد، عباس محمود: المرأة القرآن. القاهرة، دار نهضة مصر للطبع والنشر، 1976. 139 ص .
- (A168) عمارة، محمد: الاسلام والمرأة فى رأى الامام محمد عبده. القاهرة، دار الهلال، 1979. 160 ص .
- (A169) عمارة، محمد: الاسلام والمرأة فى رأى الامام محمد عبده. القاهرة، دار المستقبل العربى، 1985. 198 ص .
- (A170) عمارة، محمد محمد: صفحات من تاريخ المرأة المسلمة. القاهرة، المجلس الاعلى للشئون الاسلامية، 1973. 14 ص .
- (A171) الغزالى، زينب: أيام من حياتى. القاهرة، دار الشروق، 1982.
- (A172) الغزالى، زينب: نحو بعث جديد. القاهرة، دار الشروق، 1987.

- (A173) الغزالي، زينب: نظرات فى سورة البقرة . القاهرة، دار الشروق.
- (A174) الغفار، عبد الرسول عبد الحسن: المرأة المعاصرة . بيروت، دار الزهراء للطباعة والنشر والتوزيع، 1983 . 260 ص .
- (A175) فرج، السيد أحمد: المؤامرات على المرأة المسلمة: تاريخ ووثائق. المنصورة، دار الوفاء، 1985 . 215 ص .
- (A176) الفقى، محمد كامل: لا تظلموا المرأة . القاهرة، مكتبة وهبة، 1985 . 232 ص .
- (A177) فهمى، على حسن: العلاقة بين دور المرأة المصرية فى التنمية وتطور التشريعات الخاصة بالأسرة فى مصر. المجلة الاجتماعية القومية (1/3)، 14، 1977 : ص 91-109 .
- (A178) قطب، محمد على: بيعة النساء للنبي صلى الله عليه وسلم . القاهرة، مكتبة القرآن، 1982 . 110 ص .
- (A179) الكبيسى، أحمد: المرأة والسياسة فى صدر الاسلام . أبو ظبى، 1980 .
- (A180) لطفى، سهير: المرأة فى الفكر الاسلامى المعاصر . (ندوة المرأة والتنمية القومية) القاهرة، المركز الاقليمي العربى للبحوث والتوثيق فى العلوم الاجتماعية، 1984 : 53-64 .
- (A181) محمد، عبد الحميد ابراهيم: المرأة فى الاسلام . القاهرة، الدار القومية للطباعة والنشر، 124 ص .
- (A182) محمد، محسن: دفاع عن الزوجات. القاهرة، مؤسسة أخبار اليوم، 1975 . 28 ص .
- (A183) المدنى، محمد محمد: المجتمع الاسلامى كما تنظمه سورة النساء . القاهرة، مطبعة محمد، 1957 . 371 ص .
- (A184) المركز القومى للبحوث الاجتماعية والجنائية: بحث ظاهرة الحجاب بين الجامعات. القاهرة، 1982 . 172 ص .



- (A185) المركز القومى للبحوث الاجتماعية والجنائية : ظاهرة الحجاب بين الجامعيات التقرير الثانى، البعد الدينى لظاهرة الحجاب بين المهنيات. القاهرة، 1984 . 316 ص .
- (A186) المشد، عبد الله : الرق فى نظر الاسلام . القاهرة، المجلس الاعلى للشئون الاسلامية، 1962 . 88 ص .
- (A187) الموسوى، تقى: نساء العقيدة . النجف، مطبعة الغرى الحديث، 1977 . 121 ص .
- (A188) النواوى، عبد الرحمن حسين: الدين والمرأة . القاهرة، مطبعة أمين عبد الرحمن، 1966 . 40 ص .
- (A189) النووى، عبد الله : المرأة المسلمة فى المجتمع المسلم . القاهرة، المطبعة السعادة، 1970 . 64 ص .
- (A190) وافى، على عبد الواحد: المرأة فى الاسلام . القاهرة، مكتبة غريب، 1979 . 192 ص .
- (A191) وجدى، محمد فريد: المرأة المسلمة . القاهرة، مطبعة الدقى، 1932 . 183 ص .
- (A192) وهبه، توفيق على: دور المرأة فى المجتمع الاسلامي . الرياض دار اللواء للنشر والتوزيع، 1983 . 277 ص .
- (A193) يوسف، حسين محمد: اختيار الزوجين فى الاسلام وآداب الخطبة . القاهرة، دار الاعتصام، 1979 . 103 ص .

<文献目録—欧語>

- (E88) Abbott, Nabiah : Aishah the beloved of Mohammed. 2nd ed. London, al-Saqi Books, 1985. 230 p.
- (E89) Abdul Qayyum, Shah : Women in the Muslim world ; a case study of Egypt. (Women of the world, illusion and reality, edited by Urmila Phadnis and Indira Malani) New Delhi, Vikas Publishing House : p. 150-174.
- (E90) Abdul-Rauf, Muhammad : The Islamic view of women and the family. New York, Robert Speller & Sons, 1971.
- (E91) Afza, N. : Women in Islam. Muslim news 6(8) Feb. 1978 : p. 30-33.
- (E92) Bizri, Dalal : La femme arabe dans le discours islamiste contemporaine. Peuples méditerranéens (48/49) 1989 : p. 309-327.
- (E93) Carroll, Theodora Foster : Women, religion, and development in the Third World. New York, Praeger, 1983. 292 p.
- (E94) Engineer, Asghar Ali : Social dynamics and status of women in Islam. (Social of women in Islam, edited by Asghar Ali Engineer) Delhi, Ajanta, 1987. p. 77-96.
- (E95) Esposito, J. L.: Women's rights in Islam. Journal of Islamic studies 14(2) Summer 1975 : p. 99-114.
- (E96) el-Faruqi, Lamya : Women Muslim society and Islam. Indianapolis, American Trust Publications, 1988. 78 p.
- (E97) Fernea, Elizabeth Warnock & Basima Qattan Bezirgan : The Koran on the subject of women. (Middle Eastern Muslim women speak, edited by E. W. Fernea & B. Q. Bezirgan) Austin, University of Texas Press, 1977 : p. 7-26.
- (E98) Fernea, Elizabeth Warnock & Basima Qattan Bezirgan : 'Aishah bint Abu Bakr ; wife of the Prophet Muhammad. (Middle Eastern Muslim women speak, edited by E. W. Fernea & B. Q. Bezirgan) Austin, University of Texas Press, 1977 : p. 27-37.

- (E99) Gilsean, Michael : Recognizing Islam ; religion and society in the modern Arab World. New York, Random House, Pantheon Books, 1982. 287 p.
- (E100) el-Guindi, Fadwa : Religious revival and Islamic survival in Egypt. *International insight* (1) 1980 : p. 6-10.
- (E101) el-Guindi, Fadwa : Veiled activism ; Egyptian women in the contemporary Islamic movement. *Peuples méditerranéens* (22/23) Jan./June 1983 : p. 79-89.
- (E102) el-Guindi, Fadwa : Veiling infitah with Muslim ethic ; Egypt's contemporary Islamic movement. *Social problems* 28(4) 1981 : p. 465-485.
- (E103) Haddad, Yvonne Y. : Islam, women and revolution in twentieth-century Arab thought. *Muslim World* 74(3/4) Jul./Oct. 1984 : p. 137-160.
- (E104) al-Hibri, Azizah : A study of Islamic herstory ; or how did we ever get into this mess? *Women's studies international forum* 5(2) 1982 : p. 207-220.
- (E105) Hoffman, Valerie J. : An Islamic activist ; Zaynab al-Ghazali. (Women and the family in the Middle East, edited by Elizabeth W. Fernea) Austin, University of Texas Press, 1985 : p. 233-254.
- (E106) Hoffman, Valerie J. : Researching the religious life of Muslem women in modern Egypt. *Newsletter (American Research Center in Egypt)* (117) 1982 : p. 25-29.
- (E107) Hoffman-Ladd, Valerie J. : Polemics on the modesty and segregation of women in contemporary Egypt. *International journal of Middle East studies* 19(1) Feb. 1987 : p. 23-50.
- (E108) Hussain, Freda (ed.) : Muslim women ; the ideal & contextual realities. Beckenham, Croom Helm, 1984. 240 p.
- (E109) el-Karamani, Yussuf Izzudeen : Islam and family planning ; a brief study. *Population studies* 10(64) Jan./Mar. 1983 : p. 31-44.
- (E110) Le Balle, Robert : La condition privée de la femme égyptienne musulmane. *L'Égypte*

contemporaine 24(141) Mar. 1932 : p. 415-434.

- (E111) Lemu, B. Aisha & Fatima Heern : Women in Islam. London, Islamic Council of Europe. 1976.
- (E112) Macleod, Arlene Elowe : Accomodating protest ; working women, the new veiling, and change in Cairo. New York, Columbia Univeristy Press, 1990. 206 p.
- (E113) Marshall, Susan E.: Paradoxes of change ; culture crisis, Islamic revival and the reaction of patriarchy. Journal of Asian and African studies 19(1/2) 1984 : p. 1-17.
- (E114) el-Mernissi, Fatima : Beyond the veil ; male-female dynamics in modern Muslim society. Bloomington, Indiana University Press, 1987. 200 p.
- (E115) el-Mernissi, Fatima : The veil and the male elite ; a feminist interpretation of women's rights in Islam. Reading, Mass., Addison-Wesley Pub., 1991. 228 p.
- (E116) Minai, Naila : Women in Islam ; tradition and transition in the Middle East. New York, Seaview Books, 1981. 283 p.
- (E117) Nasir, Jamal J.: The Islamic law of personal status. London, Graham & Trotman, 1990. 358 p.
- (E118) Nasir, Jamal J.: The status of women under Islamic law and under modern Islamic legislation. London, Graham & Trotman, 1990. 151 p.
- (E119) Omran, Abdel R.: Islam and fertility control. (Egypt ; population problems and prospect) Chapel Hill, North Carolina, Carolina Population Center, 1973.
- (E120) el-Saadawi, Nawal : Woman and Islam. Women's studies international forum 5(2) 1982 : p. 193-206.
- (E121) Saleh, Saneya : Women in Islam. International journal of sociology of the family 2(1)&(2) 1972 : p. 35-42, 193-201.
- (E122) Shakir, Moin : Women in Muslim society. (Status of women in Islam, edited by Asghar Ali, Engineer) Delhi, Ajanta, 1987 : p. 111-120.

- (E123) Smith, Jane : The experience of Muslim women ; considerations of power and authority. (The Islamic impact, edited by Haddad, Haines, and Findley) Syracuse, Syracuse University Press, 1984.
- (E124) Smith, Jane (ed.) : Women in contemporary Muslim societies. London, Associated Universities Press, 1980. 259 p.
- (E125) Smith, Jane, & Yvonne Haddad : Eve ; Islamic image of woman. Women's studies international forum 5(2) 1982.
- (E126) Stowasser, Barbara : The status of women in early Islam. (Muslim women. edited by Freda Hussain) London, Croom Helm, 1984.
- (E127) Subbame, Malladi : Islam and women. Tr. by M. V. Ramamurty. Delhi, Sterling, 1988. 140 p.
- (E128) al-Talib, N.: Status of women in Islam. Islamic literature 15(6) 1969 : p. 57-64.
- (E129) Utaz, B. (ed.) : Women in Islamic societies. London, Curzon Press, 1983. 252 p.
- (E130) Wadud-Muhsin, Amina : Understanding the implicit Qur'anic parameters to the role of woman in the modern context. Islamic quarterly 36(2) 1992 : p. 125-130
- (E131) Wain, David : Through a veil darky ; the study of women in Muslim societies. Comparative studies in society and history 24(4) Oct. 1982 : p. 642-659.
- (E132) Williams, John Alden : A return to the veil in Egypt. Middle East review (11) 1979 : p. 49-54.
- (E133) Williams, John Alden : Veiling in Egypt as a political and social phenomenon. (Islam and development, edited by J. Esposito) Syracuse, Syracuse University Press, 1980 : p. 71-85.
- (E134) Zein Ed-Din, Nazirah : Removing the veil and veiling. Women's studies international forum 5(2) 1982 : p. 221-226.

(E135) Zuhur, Sherifa : Revealing reveiling ; Islamist gender ideology in contemporary Egypt.  
Albany, State University of New York Press, 1992. 207 p.